

POW研究会の歩み

2002年

2002/3/31 POW研究会(以下、P研)発足。東京のアジア太平洋資料センター(PARC)にて第1回総会。

2002/4/11-16 元オーストラリア兵捕虜Neil MacPherson氏父子とOwen Heron氏父子が来日。横浜の英連邦横浜墓地や、長崎県江迎町の潜竜炭鉱収容所(福岡第24分所)跡地を訪問。P研会員が同行。

(注:海外から元捕虜や家族が来日し、収容所跡地などを訪問した際には、P研会員は基本的にボランティアで同行し、案内している。以下、煩雑さを避けるために同様の記述は省略する)

2002/4/17 ドキュメンタリーフィルム「212枚の認識票～検証 英軍捕虜の傷痕と戦後補償～」が関西で放送される。P研が協力。

2002/5/13 会員・西里扶甬子著『生物戦部隊731～アメリカが免罪した日本軍の戦争犯罪～』、草の根出版会より刊行。東京の外国人特派員クラブで出版記念会。

2002/7/13-14 元アメリカ兵捕虜軍医の子息John Glusman氏が来日。大阪市の津守収容所(大阪第13分所)跡地や神戸市の捕虜病院跡地などを訪問。神戸学生青年センターで交流会。

2002/9/4-10 元オーストラリア兵捕虜Jack Thorpe氏父子が来日。福岡県穂波町の忠隈炭鉱収容所(福岡第22分所)跡地、戦後の占領期に駐留していた呉市、横浜の英連邦横浜墓地などを訪問。

2002/10/13- 新潟県上越市にてP研第2回総会。直江津収容所跡に建つ平和記念公園、慰靈碑、資料館などを14見学。

2002/10/14 「神戸港フィールドワーク」(by神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会)にP研が協力

2003年

2003/3/19 会員・伊吹由歌子他訳『バターン 遠いみちのりの先に』(原題: "My Hitch in Hell; The Bataan Death March" by Lester Tenney)、梨の木舎より刊行。テニー夫妻を迎えて出版記念会。

2003/5/21-25 米国の元捕虜団体ADBC(American Defenders of Bataan and Corregidor)の年次総会にP研会員5人参加。

2003/7/? 会員・石井信平訳『戦争の記憶～日本人とドイツ人』(原題: "The Wages of Guilt; Memories of War in Germany and Japan" by Ian Buruma)、筑摩学芸文庫より刊行。

2003/8/15 会員・西里扶甬子訳『731部隊の生物兵器とアメリカ～バイオテロの系譜』(原題: "UNIT 731 Japanese Army's Secret of Secret" by Peter Williams & David Wallace)、かもがわ出版より刊行。

2003/11/2-3 東京にてP研第3回総会。大森収容所、品川捕虜病院、隅田川収容所、文化キャンプ跡訪問。

2004年

2004/3/13 会員・平田典子訳『夏は再びやってくる』(原題 "Summer will come agai" by John Lane)、神戸学生青年センターより刊行。レイン夫妻を迎えて出版記念会。

2004/3/15 元イギリス兵捕虜の孫Grant McLachlan氏が、映画制作のため、ニュージーランドより来日。長野県満島収容所跡地と新潟県鹿瀬収容所跡地を取材。

2004/4/6 国會議員の石毛えい子氏、今野東氏他とP研有志による「捕虜法案に関する学習会」を、衆議院第2議員会館で開催。会員・間部俊明弁護士が講演。

2004/4/9-18 元オーストラリア兵捕虜Neil MacPherson氏、Jack Boon氏、Jack Simmonds氏とその家族計6人が来日。英連邦横浜墓地、福井県武生収容所跡地、大分県佐賀関収容所跡地、長崎県江迎町の潜竜炭鉱収容所跡地、福岡県大牟田市の三井三池炭鉱収容所跡地などを訪問。

- 2004/5/1 会代表・内海愛子著『スガモプリズン～戦犯たちの平和運動』、吉川弘文館より刊行。
- 2004/5/3 P研のホームページを開設。横浜の英連邦戦死者墓地に眠る英連邦兵士1700余人のリストを公表。
- 2004/5/3 学習会(東京)。平久保正男・諸星達雄・大庭定男(旧日本軍人)「私の戦争体験」を語る。
- 2004/5/4 会員・小暮聰子による、4月の元オーストラリア兵捕虜の来日とP研の死者リストに関する記事「Past and Present」が「Japan Times」紙に掲載される。
- 2004/6/? 会員・小暮聰子による、イラク兵捕虜虐待に関する記事「Casualty of War」が「Japan Times」紙に掲載される。
- 2004/7/26 「空襲・戦災を記録する会」全国大会(於横浜)にP研が協力。
- 2004/8/4-10 横浜弁護士会BC級戦犯横浜裁判調査特別委員会編『法廷の星条旗』の出版を記念し、横浜にてシンポジウム。同委員会の間部俊明委員長はP研会員。
- 2004/8/9 元オーストラリア兵捕虜David Barrett氏と家族が来日。英連邦横浜墓地、広島、倉敷などを訪問。
- 2004/8/10-16 会員・笹本妙子著／会員・田村佳子取材協力『連合軍捕虜の墓碑銘』、草の根出版会より刊行。
- 2004/8/13 元イギリス兵捕虜George Dunbar氏、Eric Robinson氏、John Phillips氏、Robert Pogson氏とその家族計8人が来日。英連邦横浜墓地や兵庫県生野収容所(大阪第4分所)跡地を訪問。
- 2004/8/15 会代表・福林徹及び奥住喜重・工藤洋三共著『捕虜収容所補給作戦～B29部隊最後の作戦』刊行(自費出版)。
- 2004/9/12-20 元イギリス兵捕虜の孫Grant McLachlan氏が、映画制作のためニュージーランドより再来日。長野県満島収容所跡地、新潟県鹿瀬収容所跡地、横浜弁護士会などを取材。
- 2004/10/? 元イギリス兵捕虜William Rose氏が来日、長野県満島収容所(東京第I 2分所)跡地、新潟県鹿瀬収容所(東京第16分所)跡地などを訪問。
- 2004/10/30-31 京都府宮津市にてP研第4回総会。大江山鉱山の捕虜収容所(大阪第3分所)、中国人収容所、朝鮮人収容所などの跡地訪問。
- 2004/11/2 会員・小暮聰子による、満島収容所に関する記事「Justice reaches dead-end」が「Japan Times」紙に掲載される。
- 2004/12/28 P研HPスタート。日本国内で死亡した連合軍捕虜全員のリストを公開。
- ## 2005年
- 2005/1/?-2/? P研作成の死亡者リストに関する記事が毎日新聞、Japan Times、河北新報、沖縄新報、オーストラリアのCourier Mail、英国のThe Daily Telegraphなどに掲載。大きな反響があり、世界中から100通以上のメールがP研に寄せられる。
- 2005/3/? 会員・Gregory Hadleyが、James Mackay著『Betrayal in High Places』掲載の“佐渡相川の捕虜虐殺事件”の捏造を証明した論文を完成。「産経新聞」、「四国新聞」、「新潟日報」などで紹介。
- 2005/3/? 会員・鈴木正徳訳『將軍はなぜ殺されたか～豪州戦犯裁判・西村琢磨中将の悲劇』(原題：“Snaring the other tiger” by Ian Ward)、原書房より刊行。
- 2005/3/19 学習会。会員・鈴木正徳が訳書『將軍はなぜ殺されたか』について、イギリス人作家スタンリー・ガイ氏が香焼収容所(福岡第2分所)にいた英捕虜について講演。
- 2005/3/22 P研「豪日交流基金賞」を受賞。オーストラリア大使館にて授賞式。

- 2005/3/26 フィリピン俘虜収容所の本所長として捕虜虐待の責任を問われ、戦犯として処刑された洪思翊(ファン サイク)中将のひ孫でTVディレクターの白淵雅(ペクイオナ)氏が来日、当時の部下や元朝鮮人戦犯、日本人研究者らを取材。P研が協力。
- 2005/3/27 元イギリス兵捕虜David Russell氏と家族が来日、英連邦横浜墓地や兵庫県生野収容所(大阪第4分所)跡地を訪問。
- 2005/3/28 元アメリカ兵捕虜Oscar Leonard氏と家族が来日、川崎の東京第2分所跡地、旧日本鋼管扇町工場、英連邦横浜墓地などを訪問。
- 2005/4/4-10 元オーストラリア兵捕虜の子息Pat Flanagan氏夫妻が来日、山口県小野田市の大浜収容所(広島第9分所)跡地や英連邦横浜墓地などを訪問。
- 2005/4/10 元イギリス兵捕虜の遺族Rosemary Hopkins氏夫妻が来日、英連邦横浜墓地を訪問。
- 2005/4/? 会代表・内海愛子著『日本軍の捕虜政策』、青木書店より刊行。
- 2005/5/22 「毎日新聞」、会員・福林徹が米公文書館で発見した「中部憲兵隊事件証拠写真」に関する記事を掲載。
- 2005/6/7-11 元イギリス兵捕虜Stanley Topham氏父子が来日、英連邦横浜墓地、長野県天竜村の満島収容所(東京第12分所)跡地などを訪問。英国BBCがこの様子を8月15日に放映。
- 2005/8/2-11 8月来日予定のイギリス人高校生との交流を控え、横浜英和女学院にて事前学習会を開催。高校生・大学生・教師ら約60人が参加。
- 2005/8/12 イギリスより来日のチェニー高校生33人と日本の高校生との交流や学習会。横浜英和女学院、天竜村、英連邦墓地など。
- 2005/8/15 会員・Gregory Hadleyの論文抄訳「検証：皇軍の捕虜／ネット社会を独り歩き：捏造された佐渡島虐殺事件」(鈴木正徳訳)が『週刊金曜日』に掲載される。
- 2005/8/17 元B29搭乗員で元捕虜のMartin L. Zapf氏が来日、島根県益田市、広島県向島収容所(広島第4分所)跡地などを訪問。テレビ朝日が、このドキュメンタリー番組「ヒロシマを最初に見た米兵」を9月13日に放映。
- 2005/9/23-25 長野県天竜村にて第5回総会。平岡ダム、満島捕虜収容所(東京第12分所)跡、強制連行中国人・朝鮮人の収容所跡、火葬場跡などを見学。
- 2005/11/? イギリス兵捕虜の遺族Kathleen Booth氏夫妻が来日、山口県小野田市の大浜収容所(広島第9分所)跡地や英連邦横浜墓地などを訪問。
- 2005/11/28-29 香港のフェニックスTVが、捕虜輸送船「りすぽん丸」事件の番組制作のため、大阪本所跡地、神戸分所跡地、英連邦横浜墓地などを取材。P研が協力。
- 2005/12/? P研、チェニー高校生との交流を記録した感想文集を完成。

2006年

2006/1/? 元アメリカ兵捕虜Everett Reamer氏と、アメリカ兵捕虜の遺族Nancy Brown氏母子が来日、大阪本所跡地、多奈川分所(大阪第4分所)跡地、堺刑務所、英連邦横浜墓地などを訪問。

2006/2/5 学習会。鈴木規夫氏(東京俘虜収容所長・鈴木薰二大佐の息子)、鈴木大佐の巣鴨プリズン日記について講演。

2006/3/5 学習会。会員・菅原完、日本海軍と海軍兵学校について講演。

2006/4/2 学習会。会員・小宮まゆみ、国内の民間人抑留所について報告。

- 2006/5/14 学習会。会員・三輪祐児、日本の近代化と船について報告。
- 2006/5/30 英国王室より会員・田村佳子と会員・笹本妙子に名誉大英勲章(MBE)授与。東京の英國大使館にて叙勲式。
- 2006/5/28-6/8 元イギリス兵捕虜Frank Planton氏と家族が来日、会員・田村 & 笹本の叙勲式に出席後、英連邦横浜墓地、岩手県釜石市の大橋収容所(仙台第4分所)、釜石収容所(仙台第5分所)跡地、北海道の函館収容所跡地などを訪問。
- 2006/6/7 会員・三輪祐児と伊吹由歌子の仲介により、上田毅一郎画伯の「鴨緑丸」の絵がフィリピン・スピック湾のHell Ship Museumに寄贈。
- 2006/7/17 学習会。ドキュメンタリー「偽りの墓標」を視聴後、福田勇氏(カウラ事件生還者)、木川小百合氏(カウラ会3代目会長の娘)が「カウラ日本兵捕虜脱走事件」について講演。
- 2006/8/22-23 キャンベラのオーストラリア国立大学にて、同大学太平洋アジア研究所太平洋アジア歴史部門とPOW研究会の共催により「よりよい理解に向けて～日本軍政下のオーストラリア人戦争捕虜の経験を読み直す」と題したセミナーを開催。スピーカーは同大学名誉教授Hank Nelsonなど同国の研究者や元捕虜とP研より4名。2日間の参加者はP研13名を含め、延べ約100名。セミナー後には、戦争博物館や日本兵捕虜収容所のあった町カウラを訪ね、また各メンバーが各地の元捕虜・抑留者や遺族を訪問。
- ## 2007年
- 2007/2/8 会員・三輪祐児著『海の墓標 戦時下に喪われた日本の商船』、展望社より刊行。
- 2007/4/1 2005年6月に来日した元イギリス兵元捕虜Stanley Topham氏の子息Ian氏とその子どもたちが来日、横浜の英連邦墓地、東京の靖国神社、父のいた満島(長野県天龍村)、広島などを訪問。
- 2007/4/28 P研、『オーストラリア・セミナー報告集』完成。
- 2007/5/19 大船収容所跡と龍宝寺(鎌倉市植木)見学会。約20名参加。
- 2007/5/20 P研、私立栄光学園(鎌倉市)にて「B-29国際研究セミナー～空襲と捕虜飛行士をめぐって」を開催。スピーカーはトーマス・セイラー(米国コンコルディア大学准教授)、グレゴリー・ハドリー(新潟国際情報大学教授)、福林徹(P研)、久野一郎(P研)、長沢のり(P研)、平松晃一(P研)、手塚尚(歴教協・横浜の空襲を記録する会)。参加者は約70名。
- 2007/7/1-9 函館収容所で死亡したイギリス兵捕虜(James Robert Butterworth氏)の娘一家が来日、函館や横浜の英連邦墓地を訪問。
- 2007/9/3-9 2006オーストラリア・セミナーでスピーチした元オーストラリア兵捕虜David Barrett氏(泰緬鉄道)、Bill Flowers氏(チャンギ収容所)とそれぞれの子息が来日、横浜の英連邦墓地、京都の靈山観音などを訪問。東京で4人を囲む会。
- 2007/10/10 会員・グレゴリー・ハドリーが新潟のB29墜落事件を記録した著書『Field of Spears: The Last Mission of The Jordan Crew』をPaulownia Pressより刊行。
- 2007/10/13 会員・グレゴリー・ハドリー、外国特派員クラブにて講演(新潟県横越村に墜落したB29飛行士について)。
- 2007/10/20 P研、東京の大坂経済法科大学麻布台セミナーハウスにてシンポジウムを開催。会代表・内海愛子「アジア太平洋戦争と日本軍の捕虜政策」、会代表・福林徹「本土空襲の捕虜飛行士について」、会員・笹本妙子「英連邦戦死者墓地から見えてきた捕虜～死者者リストを分析する」。P研が大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター(武者小路公秀所長)の認定研究会となる。
- 2007/10/20-25 学習会(於東京)。滝沢謙三氏(白鷗大学教授)・カレン氏(法政大学教授)夫妻が共著書『GIスープ4杯分の米粒～捕虜だった祖父が語る戦争』について講演。

2007/12/1 学習会(於東京)。会員手塚尚が「ウェーク島の戦闘」について報告。

2007/12/? 会員沖田信悦著『植民地時代の古本屋たち～樺太・朝鮮・台湾・満州・中華民国—空白の庶民史』(寿郎社)刊行。

2008年

2008/1/20 学習会(於東京)。会員・西里扶甬子が「奉天捕虜収容所」について報告。

2008/3/15 学習会(於東京)。会員・神直子が「フィリピンと日本を結ぶビデオメッセージ・プロジェクト」について報告。

2008/4/15 元B29搭乗員Ray "Hap" Halloran氏、外国特派員クラブで講演。

2008/4/23- 28 元イギリス兵捕虜の子息Ian Pritchard氏が来日、広島県尾道市の因島収容所跡などを訪問。

2008/4/26 学習会。会員・手塚尚「“Late Summer of 1941 and My War with Japan”を読む」

2008/5/24 会員・Gregory Hadleyが、研究シンポジウム「戦時における市民の暴力～B29と竹槍」で講演。(東京・日本教育会館、市民文化フォーラム主催)

2008/5/31 米元捕虜Lester Tenney氏(『バターン 遠い道のりの先に』著者)、京都ハートピアにて講演。

2008/6/4 「捕虜・日米の対話」が「米国元日本軍捕虜レスター・テニー博士を囲む会」を東京・星陵会館にて開催。P研有志が参加。

2008/6/7-8 P研第6回総会を福島市で開催。福島抑留所をめぐる講演会と見学会。講演は、会員・小宮まゆみ「太平洋戦争下の敵国人抑留について」、紺野滋氏(福島民友新聞論説委員)「福島外国人抑留所と原爆投下部隊」、会員・Robert Murphy(福島大学教授)「福島抑留所～沈黙のとばりを上げる」。抑留所が設置された旧ノートルダム修道院、抑留者の墓がある信夫山墓地、模擬原爆の破片が保管される瑞龍寺などを見学。

2008/9/27 学習会。豪歴史研究家 Ian Pfennigwerth氏講演「オーストラリア人捕虜医師ステニングの足跡をたどる」。

2008/10/25 学習会。会員・澤田猛「父島事件の真相～米捕虜の処刑に立ち会ったある海軍少尉の証言」、会員・手塚尚「北京原人の化石紛失をめぐる捕虜の動き～太平洋戦争開戦時、日本占領地の捕虜収容所」

2008/10/28 元イギリス兵捕虜の娘、Paula and Judith Medcalf 姉妹が来日、広島県尾道市の向島収容所(広島第4分所)跡を訪問。

2008/11/13 参議院外交防衛委員会にて、藤田幸久議員がP研会員福林徹提供の「麻生鉱業報告書」(米国国立公文書館所蔵)などを提示し、麻生鉱業の捕虜使役問題について麻生首相と中曾根外相に質問

2008/11/29 学習会。会代表・内海愛子報告「戦争裁判と捕虜問題」。

2009年

2009/1/24 学習会(於東京)。「麻生鉱業捕虜使役問題」について、会員田村佳子、西里扶甬子、福林徹、内海愛子が報告。

2009/1/29-2/8 オーストラリアの作家Pattie Wright女史が来日、P研メンバーの協力で泰緬鉄道関係者を取材。また山口県山陽小野田市の大浜収容所(広島第9分所)跡や本山収容所(広島第8分所)跡、広島の平和記念資料館、東京の靖国神社などを訪問。

2009/2/6 民主党・藤田幸久議員、衆議院第1会館にて「麻生鉱業捕虜使役問題」に関する報告会と記者会見。P研会員・福林徹と内海愛子が報告とコメント。

2009/3/1 会員・小宮まゆみ著『敵国人抑留～戦時下の外国民間人』、吉川弘文館より刊行。

2009/3/6 会員・沢田猛著『空襲に追われた被害者たちの戦後 東京と重慶 消えない過去』、岩波ブックレットより刊行。

2009/3/28 学習会。会員・小宮まゆみ報告「敵国人抑留～戦時下の外国民間人」、会員・長澤のり報告「南太平洋クルーズ捕虜交流記」

2009/4/3 会員・福林徹の寄稿記事「外務省が隠した麻生財閥の捕虜強制労働」が『週刊金曜日』に掲載。

2009/4/28 会員・長澤のりがオランダ人元捕虜・抑留者との和解に貢献した功績により、オランダのベアトリクス女王よりオレンジ・ナッソー賞を受賞。

2009/5/7 会員・福林徹の寄稿記事「史実検証：麻生鉱業の“消せない過去”～資料が裏付ける捕虜使役の実態」が月刊誌『世界』に掲載。

2009/5/14-21 元アメリカ兵捕虜Raymond C. Heimbuch氏が来日、収容されていた三重県四日市市の石原産業工場内の捕虜収容所(名古屋第5分所)跡と富山市の日本曹達岩瀬製鋼所(現・太平洋ランダム)の捕虜収容所(名古屋第11分所)跡を再訪。東京では、民主党の捕虜問題小委員会との懇談会や、P研メンバーとの交流会など。

2009/5/23 学習会。白戸仁康氏、著書「北海道の捕虜収容所」について講演。

2009/5/30 藤崎駐米大使が、米国サンアントニオで開催されたADBC最後の総会にて、元捕虜の苦難に対し日本政府として公式に謝罪。

2009/5/31 江田五月参議院議長、英連邦墓地を訪問。

2009/6/14- 21 元オーストラリア兵捕虜のジョー・クームズ(Joe Coombs)氏とその子息2人、元イギリス兵捕虜の子息ジェームス・マカナルティ(James MacAnalty)氏が「麻生鉱業元捕虜・家族と交流する会」(P研も協賛)の招きで来日、福岡県桂川町の福岡第26分所跡や、麻生鉱業吉隈炭鉱跡、飯塚市の麻生本社などを訪問。またクームズ氏は神戸の大坂第5派遣所跡や川崎重工神戸工場、マカナルティ氏は長崎の福岡第2分所跡なども訪問。東京では、豪・蘭駐日大使や鳩山由紀夫民主党代表、江田五月参議院議長らとの面談、衆参議員たちとの交流会、記者会見、市民向け講演会など。

2009/7/23 憲政会館にてシンポジウム「ジュネーブ条約記念の集い」(P研も共催)。会代表・内海愛子がパネリストの1人に。

2009/10/3-4 千葉県一宮町にてP研例会を開催。「千葉県中部地域における連合軍機墜落事件」というテーマで、ホックレー事件(一宮町、睦沢町、長南町)、ボナス事件(睦沢町)、エムリー事件(長柄町)の事件現場を見学。

2009/11/21 学習会。会代表・内海愛子「東京裁判と捕虜問題」

2009/12/16 「オランダ捕虜銘々票翻訳プロジェクト」に関し、オランダ国立公文書館員と打ち合わせ。

2010年

2010/1/16 学習会。会員・前川佳遠理「アジア太平洋戦争における日本軍の捕虜政策とアジア系捕虜の軍事動員～日本の東南アジア占領と兵補制度」

2010/6/6-17 「第8回マレー半島ピースサイクルinシンガポール＆マレーシア南部」にP研より7人が参加。チャンギ捕虜収容所跡、クランジ戦死者墓地、華僑虐殺事件跡地などを訪問。

2010/3/20 「オランダ捕虜銘々票翻訳プロジェクト」準備会。

2010/4/3 学習会。会員David Moreton、著書「泰緬鉄道からの生還；ある英國兵が命をかけて綴った捕虜日記」について講演。

2010/4/10-11 元アメリカ兵捕虜軍医の息子Richard B. Williams氏夫妻が香川県善通寺市の善通寺収容所跡地と山口県山陽小野田市の本山収容所跡地を訪問。

2010/5/30 学習会。蘭ドキュメンタリー「オランダと日本の戦争の古傷」“Old Pain, in the Netherlands and Japan”. 鑑賞。名誉会員・大庭定男「私のインドネシア従軍体験とオランダとの関係」

2010/7/12-25 米B29搭乗員の娘Susan Grantが来日、父が撃墜された新潟県横越村、拘留された東京憲兵隊本部跡、大森収容所跡、靖国神社、東京大空襲資料センター、広島、長崎などを訪問。

2010/7/24 学習会。会員Gregory Hadley「竹槍の里」に墜ちたB29 a B-29 shot down to the field of spears～その後の話。Susan Grant「竹槍の里」に墜ちた父の記憶をたどって」

2010/9/12- 外務省招聘による第1回米元捕虜・家族の来日。Dr. Lester Tenney等7人十家族。岡田外務大臣19が公式謝罪。東京にて市民交流会。大森、川崎、四日市、飯塚、門司の収容所跡地、横浜の英連邦戦死者墓地、京都の靈山観音などを訪問

2010/9/25 学習会。元日本軍人2人の講演。名誉会員・諸星達雄「泰緬鉄道とスマトラ横断鉄道での体験」、池上信雄「スマトラの民間人抑留所の所長としての体験」

2010/10/17 「オランダ捕虜銘々票翻訳プロジェクト」説明会(前川佳遠理)

2010/10/11-28 豪捕虜の息子John Davis夫妻が来日、父が収容されていた神戸の大坂第5派遣所跡と横浜の英連邦戦死墓地を訪問。

2010/11/2 蘭捕虜の孫Michiel & Marco Coomen両氏が来日、祖父が収容されていた茨城県日立市の東京第7分所跡を訪問。

)10/11/22-12/1 蘭捕虜の娘、Lore Ridings氏が来日、父が収容されていた山口県山陽小野田市の本山収容所跡と広島県尾道市の向島収容所跡などを訪問。

2010/12/7- カナダ元捕虜・家族38人(カナダ香港退役軍人記念協会メンバー)が来日し、P研と交流会。

11

2011年

2011/1/6 オーストラリアのFiona & Hellen Simpson姉妹が来日、親族のAlexander Cattoが戦中抑留されていた警視庁抑留所跡(現・田園調布雙葉学園)と埼玉抑留所跡(現・浦和市聖フランシスコ修道院)を訪問。

2011/1/15 学習会。英ドキュメンタリーフィルム「Hell in the Pacific」(英國Ch4制作)鑑賞。(解説:西里扶庸子)

2011/2/? 会員・鈴木正徳訳『射殺されたガダルカナル日本兵捕虜～フェザーストン収容所事件を追う(原題 The Featherston Chronicles—A Legacy of War)』(マイク・ニコライディ著／新人物文庫)刊行

2011/2/26 シンポジウム「銘々票から見たオランダ兵捕虜の実態と日本軍の捕虜政策」(発表:前川佳遠理／ 笹本妙子／手塚尚／佐久間美羊／菅原完／三輪祐児／David Moreton／内海愛子)

2011/3/2-9 日本政府の招聘で、元オーストラリア兵捕虜5名(Rowley Richards他)と付添5名、計10名十家族3名が来日。前原外務大臣が一行に面会し、日本政府として初めて公式に謝罪。各人がいた収容所跡地(酒田、横浜鶴見、新潟、大阪、佐賀関など)や、京都靈山観音、カトリック奈良教会、横浜英連邦戦死者墓地などを訪問。6日には京都で証言集会、8日には東京で市民交流会を開催。

2011/2/28- オーストラリア兵捕虜John Mayの娘Marian May氏が来日、父がいた善通寺収容所跡地を訪ねると3/12ともに、招聘された元オーストラリア捕虜の旅にも同行、P研会員とも交流の時間を持つ。

2011/4/? P研名誉会員・飛田時雄著『C級戦犯がスケッチした巣鴨プリズン』(草思社)刊行

- 2011/4/23 学習会。会員・鈴木正徳「訳書『射殺されたガダルカナル日本兵捕虜～フェザーストン事件を追う』をめぐって」／会員・手塚尚「フェザーストン収容所事件の遺骨をめぐって」
- 2011/5/15 学習会。名誉会員・大庭定男「私の戦争体験～ジャワ駐留とJSP時代」
- 2011/5/24 講演会。Mike Nicholidi氏(NZ歴史研究家)「自著『射殺されたガダルカナル日本兵捕虜～フェザーストン事件を追う』について」
- 2011/7/23 学習会。会員・坂口春海「ニューギニアのボマナBomana日本人戦争墓地／京都靈山観音の連合軍捕虜の死亡記録」
- 2011/8/15 P研がオランダ国立公文書館から翻訳委託された「オランダ蘭印軍捕虜死亡者 銘々票 翻訳データベース」が同館ウェブサイトで公開。<http://www.gahetna.nl/collectie/index/nt00425>
- 2011/9/17- 四国フィールドワーク。第1次大戦の板東収容所跡(徳島県鳴門市)、第2次大戦の善通寺収容所18跡(香川県善通寺市)を巡る。
- 2011/10/16- 外務省招聘による第2回米元捕虜・家族の来日。Robert Vogler他7人十家族。玄葉外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。大森、高岡、大牟田の収容所跡地、横浜の英連邦戦死者墓地、京都の靈山観音や立命館大学国際平和ミュージアムなどを訪問。
- 2011/11/27- 外務省招聘による第2回豪元捕虜・家族の来日。元捕虜Arthur Gambleや元民間抑留者Lorna Johnston他5人十家族。玄葉外務大臣が公式謝罪。東京と奈良にて市民交流会。横浜、埼玉、兵庫などの抑留所や収容所跡地、横浜の英連邦戦死者墓地、京都の靈山観音、奈良の登美が丘教会などを訪問。
- 2011/12/8 カナダより元捕虜3人(Mr. Gerry Gerald他)と退役軍人省大臣等が来日、外務省の加藤敏幸政務官が公式謝罪。

2012年

- 2012/3/25-29 台湾フィールドワーク。第2次大戦中台湾内にあった捕虜収容所跡数カ所を巡り、当地で調査活動を続けるカナダ人リサーチャー・Michael Hurst氏、台湾研究院の研究者・鐘淑敏さん、台湾第4分所の元監視員・侯連対さんらと交流。
- 2012/4/20-27 ニュージーランド捕虜息子Kevin Menzies氏が来日、父が収容された香川県の善通寺収容所跡や横浜の根岸競馬場跡の他、鎌倉の大船収容所跡、横浜の英連邦戦死者墓地などを訪問。
- 2012/4/28 学習会。有光健(戦後補償ネットワーク代表)「戦後補償・現状と今後の展望」、会員・荒川美智代「旧日本軍遺棄毒ガス裁判の近況」
- 2012/6/10 学習会。「台湾フィールドワーク報告会」
- 2012/7/21 講演会。早乙女勝元(作家)「ハロランの東京大空襲」
- 2012/7/22 学習会。ヴェニス大学教授 Guido Samarani氏 「イタリア人捕虜をめぐって」
- 2012/10/3-8 外務省招聘による第3回豪元捕虜・家族の来日。元捕虜Willian Schmittや元民間人抑留者 Elsa Hatfield等4人十家族。玄葉外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。横浜の英連邦戦死者墓地や京都の靈山観音を訪問。また広島では小学生と、岡山では大学生と交流会。
- 2012/10/13-21 外務省招聘による第3回米元捕虜・家族の来日。Douglas Northam等7人十家族。玄葉外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。大森、横須賀、新潟、美祢の収容所跡地や、横浜の英連邦戦死者墓地、京都の靈山観音、立命館大学国際平和ミュージアムなどを訪問。
- 2012/10/23 学習会。「満州にあった連合軍捕虜収容所」講師:瀋陽大学奉天連合軍捕虜収容所研究所所長・楊竟(ヤン・ジン)／遼源市新聞文化局副局長于杰(ユー・ジエイ)

2013年

- 2013/2/14-21 「マレー半島ピースサイクル」主催「泰緬鉄道トレッキング」にP研より5人参加

2013/3/10 学習会。宇田川幸大(一橋大学大学院生)「東京裁判と捕虜問題」／鍾淑敏(台湾中央研究院研究員「台灣史研究における捕虜問題」

2013/3/23 「共同研究 捕虜」第1回打合せ

2013/4/13-14 関西フィールドワーク(大阪・神戸・京都の収容所跡地や捕虜関連施設)

2013/4/15 広島第4分所跡(尾道市向島)に、2002年に設置されたイギリス人死亡者の慰靈碑がリニューアルされ、同時に、アメリカ人死亡者の慰靈碑も新たに併設された。

2013/5/9-16? 豪捕虜の息子John Davis 夫妻が来日、父のいた神戸の収容所跡地など訪問。

2013/6/1 講演会。森重昭「広島で被爆死したアメリカ兵捕虜」

2013/6/23 「共同研究 捕虜」第2回打合せ

2013/7/13 講演会。塚崎昌之(近現代史研究家)「日清戦争清国兵俘虜と『大日本帝国臣民』の形成」

2013/8/10-16? アイルランドのTVクルーが、長崎の福岡第14分所にいたアイルランド人捕虜医師Aidan MacCurthyに関する番組取材のために来日。P研メンバーが協力。

2013/9/15 「共同研究 捕虜」第3回。会員・手塚尚「ドゥーリットル空襲と捕虜」

?2013/9/30-10/7 外務省招聘による第4回豪元捕虜・家族の来日。Charles Edwards等4人十家族。岸田外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。横浜の英連邦戦死者墓地、山陽小野田の収容所跡地、京都の靈山観音、奈良、広島などを訪問。広島では小学生と交流。

2013/10/13-21 外務省招聘による第4回米元捕虜・家族の来日。Robert Heer等7人十家族。岸田外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。函館、小坂、尾道、善通寺の収容所跡地、京都の靈山観音、横浜の英連邦戦死者墓地などを訪問。

2013/11/24 「共同研究 捕虜」第4回。奥田豊己(国鉄元機関士)「国鉄OBから見た泰緬鉄道」

2014年

2014/1/26 「共同研究 捕虜」第5回。会員・内海愛子「東京裁判と捕虜問題」

2014/2/16 学習会。会員・前川佳遠理「オランダ泰緬鉄道シンポジウム報告」

2014/4/5 「共同研究 捕虜」第6回。会員・笹本妙子「インド人捕虜をめぐって」

2014/4/18- 長崎フィールドワーク。福岡第2分所、第14分所、第18分所跡見学+オランダ人被爆捕虜Willy Buchel 20 van Steenbergen歓迎行事+映画「美しいひと」上映会+第2分所追悼碑建立委員会設立総会

2014/6/28 学習会。会員・紺野滋「福島抑留所と遺跡保存の問題 / 原発事故後の状況」

2014/7/12 「共同研究 捕虜」第7回。「メディアは捕虜をどう報じたか」

2014/9/5 電気化学工業青海工場(新潟県糸魚川市)にて東京第13分所慰靈碑除幕式。P研より6人参加。

2014/9/14 学習会。Terry Smyth氏(イギリス人捕虜の息子)「捕虜の子供たちの問題」

2014/9/28 学習会。杉田弘也(神奈川大学教授)「オーストラリア社会における捕虜問題」

2014/10/12- 外務省招聘による第5回米元捕虜・家族の来日。William Sanchez他7人十家族。中山泰秀外務副大臣が公式謝罪。日立、足尾、大森、川崎、大阪の収容所跡地、横浜の英連邦墓地、京都の靈山観音や立命館大学国際平和ミュージアム等を訪問、14日、東京にて市民交流会。

2014/10/20- 外務省招聘による第4回豪元捕虜・家族の来日。Russell Ewin等4人十家族。岸田外務大臣が公式
27 謝罪。22日、東京にて市民交流会。同日夜、Ewin氏に同行したRichard Braithwait教授の講演「サン
ダカン死の行進を生き延びた父の話」。直江津の収容所跡地や広島を訪問。広島では小学生と交
流。

2014/11/16 「共同研究 捕虜」第8回。会員・高田ミネ「朝日新聞に見る捕虜報道」/会員・笹本妙子「写真週報
に見る捕虜報道」

2015年

2015/1/18 学習会。会員・西里扶甬子「奉天捕虜収容所博物館に関する報告&映像上映」

2015/2/8 学習会。映画上映「子供たちの涙～日本人の父を探し求めて」(制作:砂田有紀)。会員・前川佳遠理
「日本人の父を持つオランダ人の問題」

2015/3/14 「共同研究 捕虜」第9回。会員・小宮まゆみ「ジャワ新聞に見る捕虜報道」と「ジャワに海軍軍属と
して派遣された日本女性の体験」

2015/4/4-9? 東京空襲中に撃墜されて捕虜になったB29搭乗員の娘Caren Caston氏、息子William Johnston氏が
来日、墜落跡地等を訪問。NHKが取材。

2015/4/26 学習会。会員・村田則子 & 渡辺洋介「“サンダカン死の行進”跡地訪問報告会」

2015/5/23- 新潟フィールドワーク。新潟市内2カ所、阿賀町内1カ所の収容所跡地と関連施設を訪問。
24

2015/6/25- オーストラリア捕虜の息子Robert Barnes夫妻が来日、長崎市の福岡第14分所と福岡県嘉麻市の
7/5 福岡第5分所の跡地や横浜の英連邦墓地を訪問。

2015/7/24 横浜の英連邦戦死者墓地に、初めて案内板が設置され、除幕式。

2015/7/28- イギリス人捕虜の息子Toby Norway氏が来日、父がシンガポールで親切にしてもらった日本人監
8/8? 視員・山中亀男氏の遺族(茨城県)を訪問。NHKが取材。

2015/8/28- オランダ人捕虜の娘Hanna Wassenaar氏が来日、岐阜県の神岡収容所跡、横浜の英連邦墓地を訪
9/7? 問。

2015/9/13 長崎市郊外の福岡第2分所跡(現・香焼中学校)に、ここで苦難の日々を送ったすべての捕虜犠牲
者のための記念碑が建立。また、終戦直後にこの収容所に救援物資を投下するため飛来し、墜落
死したB29搭乗員のための碑も建立。除幕式には蘭・英・米から元捕虜や遺族など約30人の他、各
国大使館や外務省、長崎県、長崎市の代表など、計100人以上が参加。P研は建立に向けての様々
な活動、B29墜落地点の確認などに関わり、除幕式には11人が参加。

2015/9/29- オーストラリアのシドニー大学にて、シンポジウム「傷痕と癒し:市民社会と太平洋地域における戦後
10/2 和解(Wounds, Scars, and Healing: Civil Society and Postwar Pacific Basin Reconciliation)」開催。
コーディネーターは在豪P研会員・クレアモント康子。P研より内海愛子、田村佳子、西里扶甬子、渡
辺洋介が参加し、講演や活動発表を行う。

2015/10/10- 外務省招聘による第6回米元捕虜・家族の来日。Arthur Gruenberg他9人十家族。武藤外務副大臣
18 が公式謝罪。14日、東京にて市民交流会。横浜、川崎、神岡、大阪、敦賀の収容所跡地や横浜の英連邦戦死者墓
地、京都の靈山観音などを訪問。

2015/11/9- 外務省招聘による第6回豪元捕虜・家族の来日。John Gilmore他3人十家族。木原外務副大臣が公
16 式謝罪。12日、東京にて市民交流会。神戸、山陽小野田の収容所跡地や横浜の英連邦戦死者墓
地、京都の靈山観音などを訪問。

2015/12/5- 外務省招聘による第7回米元捕虜・家族の来日。Charles Brown他5人(全員墜落飛行士)十家族。
14 岸田外務大臣が公式謝罪。7日、明治学院大学で行われた交流会にP研会員参加。東京憲兵隊跡
地、大森と大船の収容所跡地、東京大空襲戦災資料センター、群馬、埼玉、千葉、茨城、福岡の墜
落地を訪問。

2015/12/8- カナダの捕虜家族のグループ17人が来日。10日、英連邦戦死者墓地訪問後、東京にてP研主催の12交流会。

2016年

P研学習会「慰安婦問題について」講師：池田恵理子（女たちの戦争と平和資料館=WAM）館長
2016/1/30

オーストラリア元捕虜の息子Tim Flangan夫妻とFrank George夫妻が来日、父たちがいた山口県山陽小野田市の広島第9分所（大浜収容所）跡や横浜の英連邦墓地を訪問。
2016/2/7-15

2016/2/29 オランダ元捕虜Willy Buchel van Steenbergenと日本政府との和解が成立し、同氏に慰謝料110万円が支払われる。（P研会員が裁判支援）（Buchel氏は慰謝料の大半をP研を含めた平和活動グループに寄付）

End of Feb. 長崎の福岡第2分所跡記念碑除幕式の記録集、P研より刊行。

2016/4/3-15 オランダ人研究者Dr. Ernestine Kohne-Hogenが来日、岐阜県飛騨市の名古屋第1分所（神岡収容所）跡や横浜の英連邦墓地を訪問、P研会員と交流。

学習会「捕虜法制について」（「軍事問題入門講座」と共催）。講師：福好昌治（軍事ジャーナリスト）
2016/4/30

2016/5月末 長崎の福岡第2分所跡記念碑除幕式の記録集・英語版、P研より刊行

2016/5月末 アメリカの「全米バターン・コレヒドール防衛兵記念協会」（American Defenders of Bataan and Corregidor Memorial Society=ADBC·MS）よりP研に助成金。

2016/5/31- 会員・小宮まゆみ、田村佳子、西里扶甬子、笹本妙子がオランダを訪問。3日、アムステルダムの6/9 NIOD（戦争と虐殺資料館）のシンポジウムにてそれぞれ研究発表。4日、ユトレヒトで行われた「日蘭イ対話の会」で笹本が活動報告。

2016/6/18 映画上映会「Paper Lanterns」（広島で被爆死した米捕虜飛行士12人の調査をした森重昭氏の活動を追ったドキュメンタリー。監督 Barry Frechette）

End of July 新潟県上越市直江津の東京第4分所で死亡したオーストラリア捕虜Alexander Kerrの息子Bill Kerr夫妻が来日、横浜の英連邦墓地や上越市を訪問。

2016/9/3 午前：「捕虜収容所・民間人抑留所資料集（仮）」第1回編集会議
午後：学習会。プロパガンダ映画上映「Calling Australia」「Nippon Present」「汝の敵日本を知れ」など。ナビゲーター：内海愛子

2016/9/10 長崎市香焼の福岡俘虜収容所第2分所跡にて慰靈祭。P研会員（西里、宮本）参加。

2016/10/1 「捕虜収容所・民間人抑留所資料集（仮）」勉強会

2016/10/23 学習会「ジョン・ダワー『容赦なき戦争』を読む」ナビゲーター：内海愛子、杉田弘也、佐久間美羊

2016/11/10- 新潟県上越市直江津の東京第4分所で死亡したオーストラリア捕虜Robert Farleyの異母妹Wendy 17 Kennedyの家族4人が来日、横浜の英連邦墓地や上越市を訪問。

2016/11/16 駐日オランダ大使館にて「日蘭イ対話の会インジャパン」（主催：日蘭イ対話の会）。講演：内海愛子。P研会員参加。その後、来日中の蘭元民間人抑留者と交流。

2016/11/16- オランダ元捕虜の娘Lody Pieters姉妹、息子Ed Ewals夫妻が来日、父が収容されていた大阪府多29奈川の福岡第4分所跡、福岡県嘉麻市の福岡第8分所跡、飯塚市の福岡第7分所跡などを訪問。

2016/12/4- 外務省招聘による米元捕虜家族の来日、Kristin Dahlstrom 他9人。5日、英連邦墓地と川崎の収容12所跡訪問。6日、外務省、駐日米国大使館訪問。8日、東京にて市民交流会。9日、敦賀、大阪、北九州市の収容所跡地訪問。10日京都靈山観音訪問。

2017年

講演会「東京駿河台“文化キャンプ”～捕虜放送「日の丸アワー」講師：名倉有一
2017/1/8

2017/1/26 外務省招聘による豪元捕虜・家族・研究者(ジャック・ホップグッド氏他9人)の来日、東京にて市民交流会。その後、豪国立戦争記念館主任研究員ラックラン・グラント氏と研究交流。

2017/3/11 Research meeting on “Postwar Detention of the Japanese POWs in Siberia, and compensation for their labor” was jointly lectured by the Siberia Detention Study Group, the Peace Studies Association of Japan and POW Research Network Japan.

2017/3/29~3 Family members of a former Dutch POW (Mr. Ingrid van den Berg, and four others) visited Japan. 1 and visited the Camp sites in the Osaka and Kyushu areas. Some Network members accompanied them.

2017/4/22 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「民間人抑留所」小宮まゆみ。

学習会「スマトラ横断鉄道とスマトラ新聞」江澤誠
2017/5/28

2017/6/28~7 「秋田フィールドワーク」。参加者11人。秋田県内の捕虜収容所跡3カ所(尾去沢・花岡・小坂)と民間1人抑留所跡1カ所(毛馬内)を訪ねたほか、花岡事件慰靈祭にも参加。

2017/8/25 POW研究会会報18号発行

2017/9/5~16 英捕虜家族(バーバラ・モターショー夫妻)が来日。東京にて交流会。九州の収容所跡地訪問。

2017/9/9 長崎の福岡第2分所跡の慰靈祭に、英捕虜の孫ジョージ・バレンタイン氏と前述のモターショー夫妻が参加。

2017/10/1~9 外務省招聘による米元捕虜・家族の来日(ヘンリー・チェンバレン氏他10人)。5日、東京にて市民交流会。6日～7日、各地の収容所跡地訪問。

2017/10/11~20 英捕虜の息子ポール・マレー氏が来日。東京にて交流会。北海道の収容所跡地数か所を訪問

2017/11/18 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「上北収容所」江澤誠、「捕虜輸送船」笹本妙子

2017/11/23 長崎の福岡第2分所跡の犠牲者追悼碑に、オランダのローレンティン妃(国王の弟コンスタンティン殿下の妃)が献花。

2017/12/7 外務省「日豪草の根交流」の記念事業にP研メンバー数人が参加、豪退役軍人会RSLメンバーと交流。

2017/12/19 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「鹿瀬収容所」高田ミネ、「川口収容所」井上拓也

2017/12/23 外国人特派員クラブにて、会員・クレアモント康子著『市民の力と戦後和解 Citizen Power: Postwar Reconciliation』の紹介。

2017/12/25 POW研究会会報19号発行。

2018年

2018/2/3 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「文化キャンプ」佐久間美羊、「諏訪収容所」井上拓也

2018/3/3 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「日清・日露戦争の捕虜」内藤翔太、「東京抑留所」小宮まゆみ

2018/3/21 京都にて「福林さんを偲ぶつどい」(「戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会」「中国人戦争被害者の要求を支える京都の会」「京都歴史教育者協議会」主催)。P研より6人が参加。

In early April オーストラリア捕虜の娘トレーシー・ベルさんが来日、ジャワの収容所の日本人軍医で「父の命の恩人」光藤葆光氏の妻、光藤益子さん宅や。横浜の英連邦墓地を訪問。

2018/4/21 総会(規約の制定)

『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「第1次世界大戦の捕虜」内藤翔太

2018/5/4～ 戦中、敵国人として日本に抑留されたニュージーランド人、エリック・ベルの子孫、グラアム・ベル夫31妻が来日、大叔父の足跡をたどり、東京、横浜、辻堂、沼津などを訪問し、P研会員と交流。

2018/5/19 英捕虜Albert Ernest Greenの娘キャロル・ロウさんが来日、P研の仲介と山口県山陽小野田市の職員の案内で、本山収容所跡地を訪問。

2018/6/2 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「鳴海収容所」井上拓也／「室蘭収容所」笹本妙子

2018/6/30 POW研究会会報20号発行。

2018/7/7 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「福島抑留所」紺野滋／番組視聴NHK・BS1スペシャル「父を捜して 日系オランダ人 終わらない戦争」

2018/8/18 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「大浜収容所」西里扶庸子／「アジア歴史資料センターの利用法」大野太幹

2018/10/7 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「酒田収容所」村田則子／「神戸川崎収容所・脇浜収容所」福永徳善

2018/10/8- 外務省招聘の米捕虜家族8人来日。英連邦戦死者墓地や収容所跡地訪問にP研会員同行。
12

2018/10/28 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「尼崎・播磨・鳴尾収容所」渡辺洋介／「捕虜とは何か～捕虜研究の地平線」内藤翔太

2018/11/12 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議

2018/11/20 「日蘭イ対話の会」主催の「対話の会イン・ジャパン」にP研会員4人参加。

2018/12/2 P研臨時総会(規約改定)。

P研学習会～「オーストラリアBC級戦犯裁判は日本軍の戦争犯罪をどう裁いたか」梶原嘉門／「BC級戦犯を見つめるまなざし～占領期を中心に日本人の戦争責任意識を探る」高野晃多

2018/12/14- 蘭捕虜Piet van Eckの甥Peter German氏が来日、東京でP研会員と交流後、長崎市香焼の福岡第215分所の記念碑を訪問。

2018/12/23 POW研究会会報21号発行

2019年

2019/2/2 P研事務局会議

『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「六呂師収容所」稻塚由美子、「三次民間人抑留所」小宮まゆみ

2019/2/24- 外務省招聘による豪グループ(捕虜遺族2人、編集者、RSL役員)来日。以下の行事にP研会員対応。2月25日：京都靈山観音訪問、28日：P研主催による市民交流会、3月1日：英連邦戦死者墓地訪問、2日：直江津収容所跡地訪問

2019/3/23 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「神戸捕虜病院・重願寺」田村佳子、「広畠収容所・生野収容所」福永徳善

2019/5/18 外国人特派員クラブにてシンポジウム「BC級戦犯横浜裁判で何が裁かれたか？」～パネラー：間部俊明(弁護士)、王芳(上海テレビ・ディレクター)、澤田猛(元毎日新聞記者)／P研会員

2019/5/19 山北フィールドワーク(神奈川県南足柄市の神奈川第1抑留所跡に新設された犠牲者の墓前で慰靈の集い。地元住民との交流など)。参加者:P研13人+抑留者遺族+地元住民=23人。

2019/6/21 米捕虜Frank Gunnerの遺族Marie Jorenbyさんが来日し、横浜球場収容所と横浜耐火煉瓦収容所の跡地を訪問。また横浜大空襲を体験した小野静枝さんと面談。

2019/6/22 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「善通寺収容所」名倉有一、「捕虜を巡る指揮命令系統」内海愛子、TV番組「チョウムンサンの遺書」視聴。

2019/7/25~2 P研資料を港区麻布台より神田の倉庫と千葉の佐久間研究室に移転。

6

2019/7/28 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「直江津収容所」高田ミネ、「品川捕虜病院」笹本妙子

2019/8/23 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議

2019/8/31 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「野田沼収容所／能登川収容所／米原収容所」福永徳善

2019/8/31~9 外務省招聘による米グループ(捕虜の息子・娘6人)来日。以下の行事にP研対応。9月2日:横浜英連邦戦死者墓地訪問、3日:外務省にて米グループとP研との交流会、4~5日:収容所跡訪問(福岡県大牟田市・大阪市淀川・宮城県細倉)

2019/9/14 戦前横浜のセント・ジョセフ・インターナショナルスクールで学び、戦中ジャワで日本軍の捕虜となつたオランダ人の息子Edu van Naerssen氏が来日、同校跡を訪問。

2019/10/14~ 長崎市香焼の福岡第2分所に収容された蘭捕虜の息子Andre Schram氏が来日、長崎市内の高校18で父の体験に関するインタラクティブな授業を行う。NHK「おはよう日本」とNHKワールドで紹介。

2019/10/24 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「神岡収容所」西里扶甬子、「大江山収容所」笹本妙子

2019/11/14 日本人の父を持つオランダ人Rob Sipkens氏が来日、明治学院大学横浜キャンパスで自身の体験を語る。

2019/11/16 ①東京大空襲に関する調査のため来日した米作家James Scott氏との研究交流会。
②『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「大浜収容所」西里扶甬子、「青海収容所」笹本妙子

2019/11/30- 豪戦争記念館学芸員Garth O'Connel氏来日。以下の行事にP研対応。11月30日:横浜英連邦戦死者墓地訪問、12月7日:善通寺収容所跡訪問、10~11日:直江津収容所跡訪問、14日:P研との研究交流会でアボリジナル兵士について講演。

2019/12/5, P研が協力したイタリア人捕虜・抑留所に関する番組「Forgotten Tragedy of Foreign War Detainees」12他がNHKワールドで放送。

2019/12/25 P研会報23号刊行。

2020年

2020/1/11 P研勉強会～「POWとJSP」内海愛子、NHKスペシャル「密室の戦争～発掘・日本人捕虜の肉声」視聴、片山厚志(NHKディレクター)解説。

2020/2/8 『捕虜収容所・抑留所事典』のための勉強会～「桜島収容所」「大正収容所」佐久間美羊、「毛馬内抑留所」「館合抑留所」小宮まゆみ

2020/2/22 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センターの研究報告会にて、笹本妙子と小宮まゆみが『戦時下日本の捕虜収容所・民間人抑留所～その処遇の実態』というテーマで報告。

2020/3/2~3/ 外務省招聘による豪グループ(捕虜の息子1人、孫2人、RSLメンバー1人)来日。以下の行事にP研9対応。2日:外務省会議室にてP研との交流会、3日:英連邦戦死者墓地訪問(横浜)、4日:直江津収容所跡訪問(上越市)、8日:京都靈前観音訪問。

2020/3月-6 ※新型コロナ感染拡大により、2月28日から小中高校が一斉休校になったのを皮切りに、4月7日から5月24日まで首都圏は緊急事態宣言下に入った。そのため、ほとんど会合が持てず、地方に出かけることも、海外に出かけることも、海外から来日する人を受け入れることも出来なくなり、P研活動にも大きな影を落とした。

※そうした中、少人数の会合だけでも行おうと、まずは6月から『捕虜収容所・抑留所事典』の編集会議をスタートさせた。

2020/6/6 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於水道橋)

2020/6/8 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於水道橋)

2020/6/12 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於水道橋)

2020/6/21 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於水道橋) ※朝日新聞取材

2020/7/4 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於有楽町)

2020/7/11 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於本郷)

2020/7/12 P研会報24号発行

2020/7/26 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於本郷)

2020/8/8 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於本郷)

2020/10/5 朝日新聞夕刊一面トップで『捕虜収容所・抑留所事典』について紹介されたところ、大きな反響があり、ある篤志家から出版費用として多額の寄付が寄せられた。

2020/11/10 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

2020/12/24 P研会報25号発行。

2020/12/31 文化放送で、P研が協力した特別番組「戦後75年スペシャル:封印された真実～36000人の捕虜」放送。

2021年

2021/1/3 オンライン事務局会議

2021/1/13 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議

2020/1/31 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン発表会
江澤誠「新居浜収容所・山根収容所」

2021/2/13 第1回オンライン勉強会:紺野滋「福島移民～キューバ・ハワイ・ペルー・カナダ」

2021/3/6 第2回オンライン勉強会:種市雅彦「戦没船について」

2021/3/20 第3回P研オンライン勉強会:福田玲三「スマトラで敗戦・マレー半島でJSP」

2021/5/2 第4回P研オンライン勉強会:田中利幸「インドネシア・バンカ島豪看護師虐殺事件」

2021/5/4 長崎の原爆資料館近くに、福岡俘虜収容所第14分所の追悼記念碑が完成。「福岡第14分所追悼記念碑建立委員会」、「オランダ長崎記念碑財団」、「絆委員会」による日蘭共同プロジェクト。

2021/5/29 第5回オンライン勉強会:G.モートン、D.ミルン「”世界平和のために建てられたモニュメント」

2021/6/10 『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議(於水道橋)

2021/6/26 第6回オンライン勉強会:高川邦子『アウトサイダーたちの太平洋戦争～知られざる戦時下軽井沢の外国人』

2021/7/13 P研会報26号発行。

2021/8/5 会員・小暮聰子、NHK「ラジオ深夜便」に出演(収容所長で戦犯となった祖父について)

2021/8/15 会員・小暮聰子、NHK「おはよう日本」に出演。『現代ビジネス FRaU』に長編記事掲載「祖父と戦争の真実」

2021/8/20 会員・高川邦子、NHK「おはよう日本」に出演(“ヒトラーに傾倒した”大島大使に異を唱えた祖父・大久保利隆公使について)

2021/10/2 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議

2021/10/19 会員・田村佳子、NHK「ラジオ深夜便」に出演(英連邦墓地に見る平和の願い)

2021/11/23 P研資料を神田倉庫から梨の木舎に移転。

2021/12/3 オンライン事務局会議。

2021/12/4 第7回オンライン勉強会:武田珂代子(立教大学教授)「捕虜虐待と通訳者—英軍戦犯裁判における通訳者の有罪判決をめぐってー」

2021/12/8 NHK「クローズアップ現代」で「出所を躊躇うBC級戦犯—外交史料館新規公開文書の裏」をレポート(会員・内海愛子出演)。

2021/12/8 信越放送のニュースで「戦時下軽井沢の外国人」をレポート(会員・高川邦子出演)。

2021/12/10, P研が協力したNHK番組「靈峰に落ちたB-29」が、関西エリアの「かんさい熱視線」や国際放送で放送。12,13 送(会員・笛本妙子出演)。

2021/12/18 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

2021/12月末 P研会報27号発行

2022年

2022/1/8 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

2022/1/10 & 16 P研が協力したNHK番組「靈峰に落ちたB-29」が、NHKBS1で放送。

2022/1/17 P研会報27号発送。

2022/1/23 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

2022/2/12 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

2022/2/19 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

2022/2/26 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

2022/3/12 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

- 2022/3/26 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/4/2 オンライン勉強会：熊野以素「九州大学生体解剖事件」
※熊野さんはこの事件で戦犯となった九大助教授・鳥巣太郎の姪で、『九州大学生体解剖事件70年目の真実』の著者。
- 会員・田村恵子の著書『戦争花嫁ミチ～国境を越えた女の物語り』梨の木舎より刊行。
2022/4/10
- 2022/4/10 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/4/24 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/4/28 会員・小暮聰子と祖父・故稻木誠の著書『降伏の時～元釜石捕虜収容所長から孫への伝言』岩手日報社より刊行。
- 2022/4/30 オンライン勉強会：杉田弘也（P研会員、神奈川大学教授）「2022年オーストラリアの連邦総選挙：制度、争点と展望」
- 2022/5/7 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/5/21 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/6/4 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/6/18 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/6/22 故・石原重治さんお別れ会（於：横浜大倉記念館）。P研より高橋、内海、小宮、高田、笹本参加。
- 2022/6/25 P研会報28号発行。
- 2022/7/1 P研会員・井原俊也さん逝去。
- 2022/7/2 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 神奈川県南足柄市の神奈川第1抑留所（山北抑留所）跡にて、P研の小宮まゆみと抑留者遺族、地元関係者による「神奈川第1抑留所を語り継ぐ会」開催。P研より大山、高川、笹本参加。
2022/7/10
- 梨の木舎にて、対面とオンライン併用の勉強会「イタリアは敵か味方か—第一次世界大戦期の日本における『イタリア人捕虜』」講師：土肥秀行（P研会員、東京大学准教授）。
2022/7/13
- 2022/7/16 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 横浜の英連邦戦死者墓地にて第27回戦没捕虜追悼礼拝。P研より7人参加。
2022/8/6
- 2022/8/7 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/8/8 梨の木舎にて『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議（新編集者・山本規雄さんと）。
- 2022/8/20 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/8/29 梨の木舎にて『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議。
- 2022/9/4 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 長崎市香焼の福岡俘虜収容所第2分所跡にて、第7回犠牲者追悼祈念式。P研より献花。
2022/9/10
- オンライン勉強会『日本人捕虜死者たちの戦後とカウラ日本人戦争墓地』講師：田村恵子（P研会員、オーストラリア国立大学名誉上級講師）。
- 2022/9/18 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。

- 2022/10/1 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2022/10/10 梨の木舎にて『捕虜収容所・抑留所事典』編集会議。
- 豪捕虜ジョン・マッカラム大尉(ラバウル→鳴門丸→横浜→善通寺収容所→花岡収容所)の娘ジャ
2022/10/11 ネット＆デビッド・ニコルズ夫妻の横浜訪問(小宮、田村佳子、笹本案内)。
- ニコルズ夫妻の花岡(秋田県大館市)訪問。(「花岡平和記念会」に対応を依頼)。
2022/10/18
- 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2022/10/23
- ニコルズ夫妻の広島訪問(小林皓志、溝淵尚子案内)。
2022/11/12
- ニコルズ夫妻の善通寺訪問(森広幸、デビッド・モートン案内)。
2022/11/18
- 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2022/11/23
- 中央大学多摩キャンパスにて、外務省招聘の蘭グループとの交流会。P研より3名参加。
2022/11/29
- 東京プリンスホテルにて、外務省招聘の蘭グループのレセプション。P研より3名参加。
2022/11/30
- 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2022/12/3
- 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2022/12/17
- P研会報29号発行。
2022/12月末

2023年

- 2023/1/7 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2023/1/21 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- 2023/1/31 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
- P研事務局オンライン会議
2023/2/1
- 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/2/4
- ダニエル・ミルン＆デビッド・モートンらの企画によるオンライン国際シンポジウム「アジア太平洋戦争
の捕虜:歴史、記憶、忘却」(発表者国内外22人)において、高田ミネが「直江津捕虜収容所跡の平
2023/2/7-8 和記念碑」、笹本妙子が「日本国内の捕虜収容所跡の記念碑」、高川邦子が自著『アウトサイダーたち
の太平洋戦争』について発表。
- テンプル大学で行われた、米捕虜次世代(外務省招聘:マーレイさん、スマールさん、ホスキンスさ
2023/2/14 ん、ハーディングさん、ガルシアさん、スマスさん、マグダヴィットさん)との交流会にP研より5人参
加。
- 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/2/18
- オンライン講演会「戦争トラウマ～第2次世界大戦の捕虜とその家族」講師・中尾知代さん(岡山大
2023/2/25 学准教授)。参加者48名。
- 『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/3/4
- 外務省招聘で来日した豪捕虜次世代(レイ・ギルバートさん、レスリー・キャルコットさん、アジズ・メ
2023/3/6 リックさん)との交流会(P研主催／於外務省会議室)。参加者約30人
- 豪捕虜次世代、新潟県の直江津収容所跡地訪問。P研よりデビッド・モートン、西里扶庸子が同行。
2023/3/8

「東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む集い」(会場:東京大空襲戦災資料センター+オンライン)において、P研のバートン・ブルームが東京陸軍刑務所で焼死した米飛行士62人の名前を読み上げ。

豪捕虜次世代、大阪の日立造船築港工場(キャルコットさんの父が使役された工場)訪問。P研より2023/3/12 佐久間美羊同行。

『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/3/18

新潟県の青海収容所で死亡した英捕虜ジョージ・パーマーの娘ルース・モッサム夫妻が横浜の英連邦戦死者墓地訪問。P研より田村佳子、笹本妙子が同行。

『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/4/1

福岡県の宮田収容所に収容されていた英捕虜エドワード・マレイの娘メアリー・ホワイトさんが跡地を訪問。P研の古牧昭三のコーディネートにより、宮若市石炭記念館館長の徳永哲嗣氏に案内役を依頼。

『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/4/15

『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/5/3

『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/5/6

長崎の福岡第14分所追悼碑正式除幕式。実行委員にはP研の平野伸人、井原和洋、綿貫洋子(在蘭)。オランダから遺族・関係者10人、各国大使館員、長崎市長(代理)、国会議員、P研のデビッド・モートン、西里扶庸子、笹本妙子など約70名が参加。

オンライン講演会「日本兵士のPTSDと家族」講師:黒井秋夫さん(「PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」「PTSDの日本兵と家族の交流館」代表)。参加者32名。
2023/5/20

『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/5/21

「東京山の手空襲犠牲者法要・追悼の集い」(於・表参道善光寺)にP研からバートン・ブルーム、高田ミネ参加。

『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/5/27

『捕虜収容所・抑留所事典』オンライン編集会議。
2023/6/8

「神奈川第1抑留所を語り継ぐ集い」南足柄市の跡地にて開催。P研より8名参加。
2023/6/11

2023/6月末 P研会報30号発行。

『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
2023/7/1

『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
2023/7/16

『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
2023/7/23

横浜市鶴見区の総持寺にて「サンダカン死の行進」などボルネオ戦犠牲者追悼法要。P研より9人参加。
2023/7/31

英連邦戦死者墓地にて、日本人市民による戦没捕虜追悼礼拝(参加:大山、大森、木村友彦、小宮、高田、田村)
2023/8/5

『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
2023/8/6

『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
2023/8/19

- 2023/8/23 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
- 2023/8/25-27 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』集中合宿・編集会議(於オリンピックセンター)
- 2023/9/2 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
- 2023/9/10 キャロライン・タイナー(横浜、善通寺、大森、文化キャンプ、満島に収容された英捕虜チャールズ・ウィリアムズの娘)一家、横浜・東京の関係地訪問(案内:田村・笹本)
- 2023/9/13-14 キャロライン・タイナー一家、満島訪問(案内:原・村田)
- 2023/9/20 キャロライン・タイナー一家、善通寺訪問(案内:森)
- 2023/10/7 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
- 2023/11/1 ジル・ニコルソン(沖の山収容所で死亡した英捕虜ウィリアム・ランボーンの孫娘)一家、横浜の英連邦墓地訪問(案内:田村・笹本)
- 2023/11/4 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
- 2023/11/10 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
- 2023/11/23 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
- 2023/11/28 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』オンライン編集会議
- 2023/12/4 クレア・ゴッダード(善通寺と満島に収容された英捕虜エドワード・ティレルの娘)一家、善通寺訪問
(案内:森)
- 2023/12/20 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』ついに刊行!
- ## 2024年
- 2024/2/26 『P研会報31号』発行
- 2024/3/1 『捕虜収容所・民間人抑留所事典』出版記念会(於:神田神保町出版クラブホール).参加者約40人。
- 2024/3/3 「東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む集い」(会場:東京大空襲戦災資料センター&オンライン)において、P研のバートン・ブルームが東京陸軍刑務所で焼死した米飛行士62人の名前を読み上げ。ブルームを含むP研会員3人が会場参加。
- 2024/3/4 外務省招聘で来日した豪捕虜次世代(ジョイ・ダーハムさん、トレント・ビルケンさん、ダンカン・アンダーソンさん)との交流会(P研主催／於出版クラブ会館。参加者15人。
- 2024/3/5 外務省招聘で来日した豪捕虜次世代、横浜の英連邦戦死者墓地訪問。
- 2024/3/10 オンライン講演会「東京裁判及び横浜法廷刑死者に対する米第8軍の遺体対応について
— 米国立公文書館所蔵史料を参考に —」 講師:日本大学生産工学部 准教授 高澤弘明
- 2024/3/13 新時代アジアピースアカデミー(略称NPA講座)コース17「戦争と捕虜」で、P研会員が6回にわたって発表。第1回目「連合軍捕虜36000人、敵国民間人1200人はどのように処遇されたか」(発表者: 笹本妙子、小宮まゆみ、内海愛子)
- 2024/3/27 NPA講座第2回目「直江津収容所と満島収容所——多数の戦犯処刑者と地元市民による慰靈碑建立」(発表者:高田ミネ、原英章)
- 2024/4/10 NPA講座第3回目「長崎原爆で被災した2つの捕虜収容所と被爆市民による和解の取組み」(発表者: 笹本妙子、井原和洋、平野伸人)

- 2024/4/24 NPA講座4回目「同盟国から敵国へ——翻弄されたイタリア人捕虜たちの運命」(発表者:井上拓也、福永徳善、土肥秀行)
- 2024/5/8 NPA講座第5回目「文化キャンプ——プロパガンダ放送に駆り出された捕虜たちと東京ローズ」(発表者:佐久間美羊、西里扶庸子)
- 2024/5/22 NPA講座第6回目「在日外国人たちの苦難——抑留された敵国民間人、強制移転させられた外国人」(発表者:小宮まゆみ、高川邦子)